

ジャック・ダラン博士

[元テキスト史研究所(IRHT)所長/
フランス国立科学研究センター主任研究員]



ジャック・ダラン博士の紹介

1952年にパリ郊外のブローニュ＝ビヤンクールに生まれる。
1972年パリ第1大学で歴史学の学士号を取得し、1975年教授資格試験に合格。
1984年ロベール・ダルブリッセルの聖人伝写本の研究でパリ第1大学から第3期課程博士号を取得。この博士論文は翌年『不可能な聖性—フォントヴロー修道院創建者ロベール・ダルブリッセル（1045年頃-1116年）の見いだされた伝記』と題して出版され、国際的な反響を呼んだ。
その後、在ローマ・フランス学院中世史部門主任を経て、1998年から2004年まで国立テキスト史研究センターの所長を務め、現在フランス政府研究庁主任研究員として活躍している。また学界や政府関連の要職を数多く担い、フランス中世史学界を代表する戦後世代の一人である。著書、論文は240点の多数を数える。

【グローバルCOE講演会】（使用言語：英語）

2008年11月5日(水) 午後6時～ 名古屋国際センター内GCOEオフィス
「歴史史料としてのバイユーの綴れ織り」

2008年11月27日(木) 午後2時30分～ 名古屋大学文学研究科大会議室
「アッシジの聖フランチェスコと聖女クララの関係に見る男／女関係」

【テキスト布置解釈学原論追加講義】（使用言語：英語）

2008年11月12日(水) 4限 文系共同館2B
「グレゴリウス改革期における隠修士ロベール・ダルブリッセルと修道女の生活」

2008年11月13日(木) 3限 文系共同館2B
「アベラールとエロイズ往復書簡についての考察」

2008年11月17日(月) 4限 名古屋大学文学研究科大会議室
「アッシジの聖フランチェスコの自筆にもとづく母性統治についての考察」

2008年11月18日(火) 4限 名古屋大学文学研究科大会議室
「ウンブリア伝説：アッシジの聖フランチェスコ新伝説」